女性教職員活躍推進だより

第5号　令和5年5月10日　教育庁職員課

☆★　女性管理職ロールモデル紹介　☆★

福島県立安積黎明高等学校長

黒川　佳子 さん

職員課主幹兼副課長
高橋敏幸が話を伺いました！！

Q：これまでの経歴を教えてください。

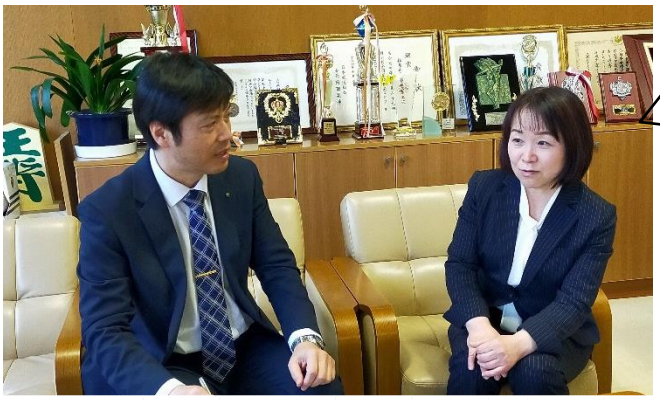
教科は家庭科です。初任校は磐城農業高校でした。５年の勤務を終え、白河実業高校に異動となりました。白河実業高校在籍中には、青年海外協力隊に参加し、ガーナの職業訓練所で高校生と同じ年代の女性に手芸の指導を２年間行いました。白河実業高校から教育センターに指導主事として異動となり、家庭科について様々な角度から３年間研究を行いました。郡山商業高校に教諭として現場復帰した際には、教育センターでの経験を生かし、授業づくりに全力投球した５年間でした。その後、高校教育課指導主事として２年間、指導業務に携わり、教頭へと昇任、郡山萌世高校定時制へと異動しました。２年間の教頭職経験後は、高校教育課駐在管理主事として再度教育行政に２年間携わりました。

校長として現場に戻ってからは、本宮高校２年、あさか開成高校２年、安積黎明高校２年目となります。

Q：教頭昇任試験を受けるきっかけは？

高校教育課の指導主事のとき、上司から勧められました。高校教育課に異動となったことが大きな転機となり、周りの応援もあったことで、昇任試験を受験しました。

Q：家庭と仕事の両立で工夫したことはありますか？



夫と家事の分担はしています。夫は家事をやるのは当然であると考えてくれていると思います。また、基本的には、自分のことは自分でするというスタンスで、気付いた人がやっている感じです。お互い「自分のほうがたくさんやっている」と感じているのではないでしょうか（笑）

Q：教頭のやりがいは？

教頭は、先生方と日々やりとりがあり、生徒の情報も集まるので、学校の様子をよく理解できます。教頭として見る学校は、教諭のときのものとは別物です。生徒をはじめ、様々な方々と幅広く関わりを持ち、学校を運営していくことにやりがいを感じました。

Q：逆に大変だったことは？

教頭には、あらゆる情報が集まってきます。それらの情報を整理し、有効に活用するためには、当然勉強が必要になります。また、情報の質を吟味し、先生方に伝え、よいタイミングで活用することが大変でした。

Q：校長としてのやりがいは？

学校を動かすことは、校長だけではできません。しかし、校長が動かなければ学校全体は動きません。学校が一つの目標に向かって動き出すには、時間と、エネルギーが必要ですが、学校全体が動き出したと実感できたときには、この上ない喜びを得ることができます。その経験は、校長だからこそできるものだと思います。

Q：最後に、女性教職員の皆さんにひとこと。

学校にいるだけでは分からない、学校と社会とのつながりがたくさんあります。管理職は、外部の方とお会いすることも多く、物事を多面的に考えるようになることで、学校の見え方が変わります。見え方が変わることで、新たにできることが出てきます。先頭に立って学校をよりよく変えていくことができることが、管理職の大きな魅力の一つだと思います。大変なことも当然ありますが、やりがいのほうが多いですよ！！

黒川佳子さん、
貴重なお話、大変ありがとうございました！
次回の女性教職員活躍推進だよりの発行は、６月を予定しています。
令和5年度も、福島県で働く女性教職員の活躍を伝えていきたいと思います。
よろしくお願いします。

～女性教職員活躍推進だよりの発行に当たって～

福島県教育委員会は、女性が職場においてその力を発揮できるよう、「女性教職員活躍推進プラン」を策定し、教職員のニーズに即した女性活躍のための対策を計画的に推進します。また、男女共同参画の実現に向けて、人事の公平性・公正性を確保しつつ、女性教職員の管理職への登用に努めることで、令和７年度までに、女性管理職の割合を教頭・副校長で１５％、校長で１３％とすることを目標としています。